

はじめに

秋田県健康環境センターは、平成18年4月に旧衛生科学研究所と旧環境センターを統合し設立された試験研究機関であり、県民の皆様の「健康被害の防止」と住み慣れた郷土の「環境の保全」を目的に、日々試験検査及び調査研究に取り組んでいます。

具体的には、病原性のある細菌・ウイルス検査や食品中の残留農薬等の食品検査、工場排水等の水質検査など幅広い分野の検査を実施しておりますが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症や食中毒に係る検査、災害発生時における河川の水質検査など突発的な事象にも速やかに対応したほか、課題解決に向けて調査研究を進めるとともに、研究や試験検査の内容についてウェブサイトで公開するなど、わかりやすい情報発信に努めてまいりました。

さて、令和元年12月に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生が中国で確認されてから、4年が経過しようとしています。当センターでも令和2年2月に本県で最初のPCR検査を行った後、検査機能を強化しつつ対応を進めてきたところです。今年5月に感染症法上の5類感染症に移行しましたが、当センターが取りまとめている県内の「感染症発生情報」が毎週のように報道されるなど、現時点でも社会的な影響が続いています。

こうした中、国では今回の流行への対応等から、新たな感染症に対して備えるべく感染症法等の改正を行いました。その中で地方衛生研究所を法的に位置づけるとともに、体制整備の基本的方針等を明確にしています。

また、国内の河川や地下水で局地的に検出されている高濃度のPFOS、PFOAなどの有機フッ素化合物については、現在、国において有害性の評価など総合的な対応策の検討が進められています。

このような状況を踏まえ、当センターとしては試験検査や調査研究などの活動を基本としつつ、最新の知見や研究成果、国の動向などに目を配りながら、危機管理も含め新たな課題への対応が可能となるよう職員一同努力を重ねていきたいと考えています。

この年報は、主に令和4年度に当センターが行った試験検査業務の実績や調査研究の成果など活動の概要について、とりまとめたものです。本報を通じ、より多くの皆様が、当センターについてご理解とご関心を深めていただければ幸いです。

令和5年12月

秋田県健康環境センター所長 熊谷仁志

